

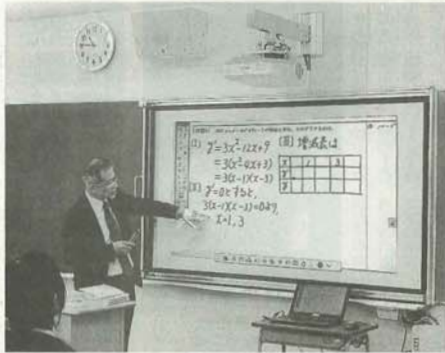
特集

新しい学びを支援する環境を整える

授業改善目的に提示環境を一新

広島県・広陵高等学校

「教育は愛なり」の建学精神を持つ広陵高等学校（広島市・國貞和彦校長）では学力向上を目的に平成25年度からICT環境の整備に着手しており、生徒用タブレット端末も順次整備中で、現在計800台を学校で管理している。本年度は授業改善を目指し、全教室に超短焦点プロジェクターを設置。同時に、同校のアイデアや要望を盛り込んだ「ルール式スライドスクリーン『Ninja』」も設置し、授業支援ツール「PenPlus Classroom」の活用も始めた。整備の目的と活用、効果について、國貞校長、落合幸良教頭、堀正和教頭に聞いた。



授業支援ツールも活用。ワークシートを提示して書き込む

同校の「ICT改革元年」は平成25年度だ。ICT教育推進委員会を立ち上げ、落合教頭が推進役となって教員用情報端末や生徒用端末、無線LANの整備を開始。

教員はペーパーレス会議や教務事務システムの活用



國貞校長

同校ニーズ反映して開発

ルール式スライドスクリーン「Ninja」



黒板に教員の影が映らない超短焦点プロジェクターを設置。スクリーンは「すぐにセッティングでき、すぐに片付けられる」

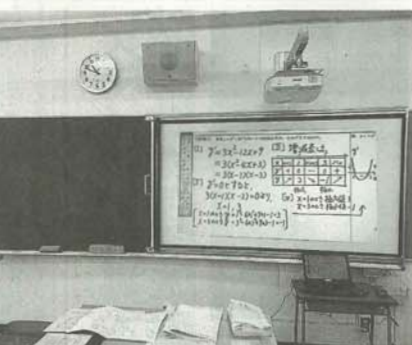
「整備する場合は全教室一斉に進めて同じ環境としたかった。使い勝手や活用の目的、予算との兼ね合いでプロジェクターとスクリーンの組み合わせとスクリーンの組み合わせと話をした」

黒板に教員の影が映らない超短焦点プロジェクターの協力により、黒板上下にレールを設置してスクリーンを引き出し、固定できるもので、上下にレールがあるため、湾曲黒板でも歪むことなく滑らかにセッティングでき、片付けも片手のみで一瞬できる。常設だが使用しないときには黒板脇に格納できるので、黒板全面を使うことができる。スクリーンの厚みも3センチと、一般的なマクネットスクリーンよりも厚手の映画投影機を使用。色の再現性が高く、磁力の向上による黒板に対する密着性をアップした特別仕様だ。

黒板上下にレールを設置してマグネットスクリーンをスムーズに開閉できる「Ninja」は同校の要望で開発

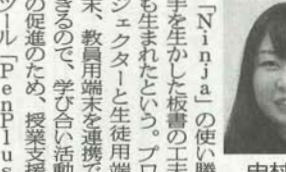
「絶対」に落ちない「絶対」に落ちない「絶対」に落ちない

生徒用端末を活用した個別学習のためのオンライン教材は、英語と数学のカリキュラムにも組み込んで推進。数学では反転授業にも取り組んでいる。



全教室に提示環境を整備。湾曲黒板にも設置できるスクリーンの幅は自由に調整できる

「準備する場合は全教室一斉に進めて同じ環境としたかった。使い勝手や活用の目的、予算との兼ね合いでプロジェクターとスクリーンの組み合わせとスクリーンの組み合わせと話をした」



中村教諭

「Ninja」の使い勝手が上がるのでやり取りが増え、反応を見ながら教員の手を動かした板書の工夫が生まれたという。プロジェクターと生徒用端末、教員用端末を連携させることで、学び合い活動の促進のため、授業支援ツール「PenPlus Classroom」も活用。ザラ設置などで、教員用ノートPCから生徒用タブレット端末に教員が表示される工夫など、材を一斉配布したり、生徒が8割と高かった。

英語科の竹本淳一教諭は「普通教室では、音声教材の活用や映像提示の準備に時間がかかっていたが、この教室でもできるようなり、活用頻度が上がった。これまで板書していた英文も、プリントやデジタルデータを教員用端末から大画面で提示できるので、解説やグループワークの時間をより多く確保できるなど、授業のペース配分が変わり密度を高めやすくなる」と話した。

「普通教室では、音声教材の活用や映像提示の準備に時間がかかっていたが、この教室でもできるようなり、活用頻度が上がった。これまで板書していた英文も、プリントやデジタルデータを教員用端末から大画面で提示できるので、解説やグループワークの時間をより多く確保できるなど、授業のペース配分が変わり密度を高めやすくなる」と話した。



竹本教諭

とができる。次の時間に、書き込みの続きから始めることができる点が大変便利」担当クラスの授業アンケートでは「文章の重要点がわかりやすい」「問題演習がスティーラーに進む。発音練習の時間が増えた」と好評だ。今後は「スティーリングや会話のやりとりなどを音声や画像クリップにして評価、振り返りに活用したい。ICTでの音声指導の難しさをICTでカバーできれば」と話した。

スクリーンの特性生かす

化学担当の中村明日香教諭は「全教室整備により、グラフを拡大提示しやすくなった。生徒の顔が上がるのでやり取りが増え、反応を見ながら教員の手を動かした板書の工夫が生まれたという。プロジェクターと生徒用端末、教員用端末を連携させることで、学び合い活動の促進のため、授業支援ツール「PenPlus Classroom」も活用。ザラ設置などで、教員用ノートPCから生徒用タブレット端末に教員が表示される工夫など、材を一斉配布したり、生徒が8割と高かった。